門司港レトロ
歴史とグルメの港町

福岡県北九州市・門司港の魅力をたっぷりご紹介。
レトロな雰囲気を楽しみながら、歴史やグルメ、観光スポット情報をお伝えします。

© 2025 門司港レトロ紹介

門司港の歴史と街並み

国際貿易港としての発展

明治22年（1889年）に開港し、大陸貿易の拠点として栄えた門司港。明治期から昭和初期にかけて「東洋一の貿易港」と呼ばれるほど発展しました。

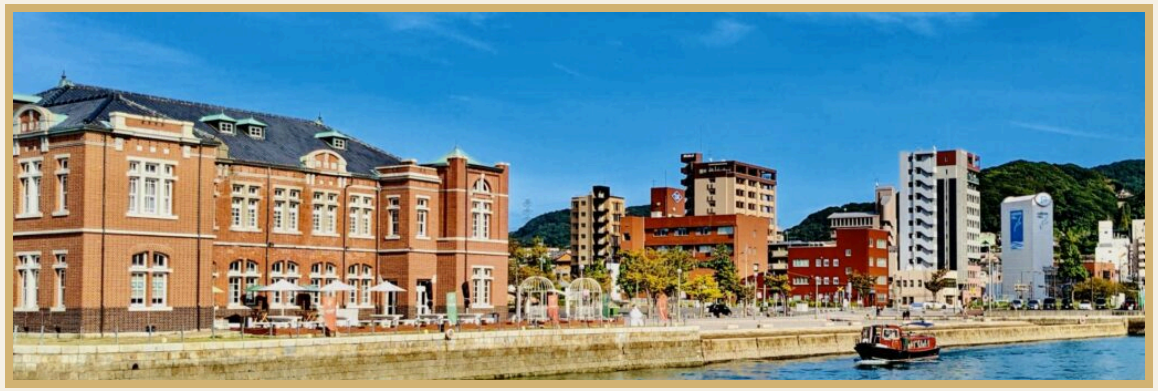
建築の特徴

当時の繁栄を物語る欧風建築や近代化産業遺産が数多く残り、「門司港レトロ地区」として整備されています。赤煉瓦の洋館や石造りの歴史的建造物が点在し、レトロな雰囲気を醸し出しています。

文化的交流の中心地

国内外の文化が交わる場として、独自の文化や食文化も発展。今日では観光地として、当時の面影を残す建物群と関門海峡の絶景を楽しめる人気スポットとなっています。

旧門司税関（明治45年建築・国指定重要文化財）



大正ロマン漂うレトロな街並み

1988年から「門司港レトロ」として、歴史的建造物を生かした街づくりが進められています

観光スポット紹介

レトロな街並みと関門海峡の絶景を楽しめる名所の数々

門司港駅

大正3年（1914年）建築の国の重要文化財。ルネッサンス様式の美しいドーム屋根が特徴的な歴史的駅舎。2019年に修復工事を終えて、より美しく蘇りました。

旧門司税関

明治45年（1912年）建築の赤煉瓦の建物。国の重要文化財に指定されています。内部は資料館として公開され、歴史を感じられる空間になっています。

九州鉄道記念館

鉄道の歴史を学べる博物館。蒸気機関車やジオラマなどの展示が充実。シミュレーターで運転体験もできる人気スポットです。

関門海峡・関門橋

本州と九州を隔てる海峡と、それを跨ぐ雄大な橋。和布刈公園（めかり公園）からの眺望が絶景です。夜景も美しく、ライトアップされた橋と街の灯りが幻想的な景色を作り出します。

レトロな町並み散策

レトロな雰囲気漂う街並みは徒歩での散策がおすすめ。北九州銀行レトロライン潮風号（トロッコ列車）に乗れば、海沿いの景色を楽しみながら主要スポットを巡ることもできます。

主要観光スポットは徒歩30分圏内にあり、半日〜1日でゆっくり巡れます

門司港名物グルメ：焼きカレー

昭和30年代に誕生した港町のご当地グルメ

門司港焼きカレー

門司港焼きカレー

耐熱鍋にご飯を敷き詰め、その上にカレーソース、チーズ、卵をのせてオーブンで香ばしく焼き上げた門司港の名物料理。外はカリッと、中はトロトロの食感が絶品です。

食感のコントラスト
表面はカリカリ、内側はトロトロ

チーズの風味
とろけるチーズが香ばしく

焼きカレーの歴史

誕生秘話
昭和30年代（1955〜1964）、門司港栄町銀天街の喫茶店「山田屋」で余ったカレーをグラタン風にオーブンで焼いたのが始まりとされています。

広がり
まかない料理として作られたものが好評となり、正式なメニューとして提供。その後、門司港の名物料理として地域に広がりました。

現在
今では門司港レトロ地区を代表するご当地グルメとして全国的に知られ、多くの観光客が食べに訪れます。各店舗がそれぞれ工夫を凝らした焼きカレーを提供しています。

おすすめ店舗

- カレーハウスピピ
- ベアーフルーツ
- 伽哩本舗
- ルアウカフェ

門司港レトロ地区内に20店舗以上の焼きカレー店があります

門司港レトロインフォメーションセンターでは「焼きカレーMAP」を配布しています

アクセスとモデルコース

電車でのアクセス

- JR小倉駅から鹿児島本線で15分
- 新幹線博多駅から小倉駅経由で約40分

車でのアクセス

- 九州自動車道門司ICから約8分
- 北九州空港から車で約40分

おすすめモデルコース

3時間コース（ハイライト巡り）

門司港駅 → 旧門司税関 → 門司港レトロ展望室 → 名物焼きカレーの昼食 → 関門海峡散策

1日コース（じっくり観光）

門司港駅 → 旧門司税関 → 旧三井倶楽部 → 焼きカレーの昼食 → 九州鉄道記念館 → 潮風号トロッコ列車 → 関門海峡めかり公園 → 関門トンネル人道 → 下関散策

潮風号トロッコ列車で門司港レトロ地区を巡る

観光のポイント

- 主要スポットは徒歩30分圏内にコンパクトに集中
- 北九州銀行レトロライン潮風号で景色を楽しみながら移動可能
- 関門トンネル人道を歩いて山口県下関市にも足を延ばせる
- 施設の営業時間は9:00〜17:00が基本（季節変動あり）

土日祝は混雑するため、平日の訪問がおすすめです。各施設の休館日も事前にご確認ください。